

【平成28年12月10日（土）開催分】

説明会開催結果	開催日時	平成28年12月10日（土）19：00～20：30
	開催場所	会場の名称 座間市公民館集会室 会場の所在地 座間市入谷1 - 3097
	参加人員	参加人員 7人
	事業者側の主な出席者	厚木市(まちづくり計画部都市計画課、環境農政部環境施設担当) 厚木愛甲環境施設組合【説明者】
	説明会の経過及び概要	19：00 開会 ・代表者挨拶 ・関係者紹介 19：05 環境影響予測評価実施計画書の概要説明 (パワーポイントにより約30分説明) 19：40 質疑応答 (主な質問・要望と回答は下記のとおり) 20：30 閉会

主な質問・要望	回答
予測評価書案まで2、3年あるが、その間の手続きを年度ごとに教えてほしい。また、調査は1年かけて行うのか。	今年度は実施計画書を策定した後、現地調査を1年間かけて実施します。その後、予測評価書案を作成します。
煙突の高さが確定していないということだが、大気質の調査地点は煙突高さ59mをベースに想定しているのか。	現時点では現センターと同じ59mの高さの煙突が立つものとして、調査地点を設定しています。
座間市に大気質の調査地点が設定されていない理由は何か。	年間の風向データによると北風が多く吹いており、この風向に対し4方向を調査地点として設定しています。 このため、結果的に座間市が含まれていませんが、予測は半径3kmの範囲で面的に評価しますので、座間市でも予測結果をお示しできます。
煙突の高さは変わるのか、炉の大きさはどのくらいか。	煙突の高さは現在検討中です。炉の大きさは現況よりも処理能力が2割程度少なくなり、施設としてコンパクトになります。
評価項目のうち、選定していないものの根拠は何か。	気象は周辺に影響を与えるような大きな建物ではないこと、地象は実施区域は平坦地で工事により崩壊等は起こらないこと、文化財は実施区域に分布していないこと、実施区域では地域分断を起こさないことから、項目から除外しました。
土壌調査で農薬や鉛も測定するのか。	実施区域内では、水銀や鉛等の測定を行います。
供用後の地盤沈下は発生しないか。	地下水は、平時は利用しないため供用後の地盤沈下は調査項目から除外しています。非常時の使用については、水位を確認しながら行います。
騒音は雲が低い場合に、騒音が雲に反射して遠い場所まで聞こえることがあるが、そのことも考慮して予測を行ってほしい。	環境影響評価では影響が最も大きい箇所为目标値と比較して評価を行います。直接伝わる騒音の方が数値は大きくなるため、反射を考慮した予測は行いません。
焼却灰は資源化できるのか。	民間に委託して全量資源化する方針です。

主な質問・要望	回 答
地域概況で大気質と水質が基準を超過した理由は何が考えられるか。	大気質は自動車の排ガス、水質は自然由来のもの等が考えられます。
発電効率17%以上となるが、何に対して17%なのか。	投入エネルギーに対する得られた電力エネルギーの割合のことをいいます。ごみ焼却施設では、発電量をごみと灯油等の燃料の熱量の和で割った値です。
余熱は何%利用できるのか。	余熱利用の内容はこれから検討するものです。現況ではふれあいプラザのプールで使っています。
系統連携はどうやってやるのか。	東京電力と組合で事前に協議を行いまして、特別高圧を引き込んで送電を行うこととしています。
動物の調査日数はどのくらいか。また、調査地点の選定根拠は何か。	各項目、各季節で、1～2日で計画しています。調査地点は、事業実施区域内とその周辺の環境を把握することを目的に、周辺の耕作地と東側の河川敷に設定しています。
計画地に生息する動物を正確に把握できるのか。調査時にたまたま確認できなかった動物が計画地には生息していないという扱いにならないようにしてほしい。	生き物相手の調査であるため、調査時に確認できない種がでてくる場合もあるかと思いますが、文献調査での生息情報を考慮して確認種数が明かに少ないと判断される場合には再調査を行うことを検討します。また、出来るだけ確認できるよう、悪天候時には調査を行わないこととしています。
新施設の耐久年数はどのくらいですか。	30年以上の利用を見据えて計画しております。
現場見学会を計画していただきたい。	今後、検討したいと思います。